

海津木苑運営委員会（令和元年度 10 月期）

会議録

1. 日 時： 令和元年 10 月 17 日（木）15 時 00 分 開会
2. 場 所： 古賀市海津木苑 会議室

3. 出席委員（13 名）

委員長	結城 弘明	副委員長	清原 留夫
委員	智原 和子	委員	内場 恭子
委員	内平 晃二	委員	清原 秀則
委員	清原 透	委員	三好 収
委員	安武 正一	委員	森 里子
委員	横田 昌宏	委員	河北 吉昭
委員	星野 孝一		

4. 欠席委員（箕原委員）

5. 傍聴者数（なし）

6. 事務局出席職員職氏名

市民部長	清水 万里子	環境課長	智原 英樹
海津木苑長	吉田 義昭	海津木苑係長	国本 勝喜
海津木苑職員	古賀 仁尚		

概要

15 : 00 開会

1. 古賀市あいさつ
2. 委員長あいさつ
3. 協議事項及び報告

- 1) 会議録について（事務局より説明）

- (1) 8 月期運営委員会会議録

資料.1

- (2) 10 月期運営委員会会議録署名

【質疑・意見】 なし

- 2) 海津木苑運営に関する実施状況について

資料.2（事務局より説明）

- ・令和元年 8 月及び 9 月の処理状況について

[質疑]

委員 : 浄化槽汚泥の搬入量及び水道使用量が 9 月は多くなっているが、季節的な関係があるのか。

[答弁]

海津木苑長 : 浄化槽搬入量の増加については、9 月の浄化槽搬入量が多くなっているが、浄化槽搬入量の内訳として、農業集落排水施設からの汚泥が 8 月は 100kl の搬入があり、9 月が 160kl の搬入があり 8 月よりも 60kl 増加した関係で増加している。

水道の使用量については、脱臭塔のアルカリ洗塔、次亜洗塔の配管内にスケールが付き圧力が上昇していたことから、配管内の洗浄と水の入替及び冷却装置を稼働させていたことから水道使用量が増加した。

[質疑]

委員 : 浄化槽の搬入量が増加したのは承知したが、季節的なものなのか 9 月は条件が重り増加したのか。

今後のことを考えて、例えば 4 月位から搬入量が増えていくなど知っていれば見方が変わると思う。

[答弁]

海津木苑長 : 季節的な影響もあると推測する。

[質疑]

委員 : 農業排水事業の汚泥についてはこれから先も増加すると思われ、施設の能力としてはまだ余力があるということなので安心しているが、変動などを具体的に把握していただくと私どもも分かりやすいと思うので、検討いただきたい。

[答弁]

海津木苑長 : 浄化槽汚泥が増加したのは、繋込みを行う場合、今まで浄化槽を設置していた家庭等では、全量の汚泥を引き抜き海津木苑に搬入される。

今年度小野小学校も繋込みがされ、小学校単位で申せば 80kl から 100kl の搬入があり、次年度以降の搬入は無くなり、相対的には浄化槽汚泥は減少していく。

3) 海津木苑臭気測定について (事務局より説明)

[質疑・意見] なし

4) 海津木苑施設等啓発について
(事務局より説明)

資料.3-1

資料.3-2

資料.3-3

資料.3-4

[質疑]

副委員長 : 鹿部区への出前講座で参加者 63 名が受講され、アンケートを取られている。
他所ではアンケートの回収率が高いが、鹿部区のアンケート回収率が低い。
現在次期し尿処理施設建設に向けて動いているが、施設の歴史や経過で参考になつたとのアンケートが一部出ているが、なぜ、アンケートの回収率が 5 割を切っているのか。海津木苑職員の感じとしてどうなのか。

[答弁]

海津木苑係長 : 今回の出前講座については、小さなお子様もおり、回答が少なかったのではないかと感じている。
子どもの数も参加者に入れており、約 20 名程度と記憶している。

[意見]

副委員長 : 小さな子どもと言われても分からない。
例えば子どもを抱っこしている者も一人なのか、或いは小学生以上なのか、理解が出来ない子どもの数を参加者として取り扱うのはいかがかと思うが。

[答弁]

海津木苑長 : 出前講座に参加された人数が 63 名で大半は大人であったが、初めて来られる方もおられたのかと思う。
まずは、海津木苑を知っていただき、アンケートに対する回答は少なかったが今後も継続して施設の啓発は続けていきたいと考えており、アンケートも取らせていただきたい、最初なので回答が少なかったのではないかと思う。

[意見]

委員長 : 配布数と対象受講者数が合わないといけない、理解できない子どもも参加者として入れていてはアンケートは取れない。
それが半数を切ったそのような事が要因であると思う。
アンケートの取り方についても工夫し改善していかないとけない。

[意見]

副委員長 : 鹿部区より受講されたのが 63 名で、大人の方が 63 名受講されたのに、アンケートの回収率が少ないと思っていたが、小さな子どもも対象ということであるならば子どもの人数は何名かということを訪ねている。
人数が合わないにしても、報告していただかないといけない。
今後鹿部区は市と協定を結ばないとけないので、地元にしっかり理解してい

ただきたいということで出前講座を行っていると思う、アンケートの回答も少ないので聞いている。

[意見]

委員長 : 配布数と回収数を明確にしておかないと子どもさんでも小学生である程度理解できたらいいが、それこそ1歳くらいのお子さんをカウントしてはいけないのではないか。
それは改善していただきたい。

[答弁]

海津木苑長 : 今後改善する。

[意見]

委員 : 子ども達には少し難しかったようでと文章の中で下りがあるが、子ども達が来るかもしれないという前提はあったと思うが、子ども達用の話、大人用の話というように計画性を持つことが出来たと思うが、大人用の講座を子ども達が一緒に聞き、何のために子ども達は来たのかと思う。
4年生の子どもだったら既に、海津木苑のことを知って学習している。その子達もアンケートを書かなかったのかということも含め、小さな子にも解かりやすく楽しめる感じにして頂けたらと思った。と言われる前に準備の段階で、区は区民全員に呼びかけを行い、どのような年齢層が来るのか判断がつかないと思うが、受ける施設側は子どもも来るかもしれない、関心があり初めて参加する年齢幅が大きいというところを事前に察知して計画をしなければいけないと思う。

[意見]

委員 : 当日は年に2回、研修会や見学を行っており現地での見学はそのうちの一つである。
参加者は基本的に各組の組長と他の方を含め行っており、今年度は子ども会の保護者に聞いていただくということで子ども会に働きかけた。
どうしてもお子さんがいるので一緒になってしまうが、その中には小さなお子さんを抱っこしたまま来られた方もいたし、小学生低学年のお子さんを含め参加いただいた。
小学生くらいのお子さんには名簿に記載していただいていた。
そのようなやり方をしたというのが回収率が低いという指摘の部分である。
今後はこの辺りを再考し方法を検討する必要があると思う。

[意見]

委員 : 私も初めて参加させていただいたが、やはり家族で来られている方が多く、半数がお子さんであったと思う。
家族で1つアンケートを出す方もいたと思う、学校行事で皆で行って皆さんに

アンケートを書いていただくという場ではなかったと思うし、そこまで地域の家族全員にアンケートを記入していただくのは求めすぎではないかと思う。

[意見]

委員長 : 子どもは子ども向けのアンケートでないといけないのではないかと思うが、その辺りは対応をしていただきたい。

参加人員、配布枚数、回収枚数をごちゃ混ぜになっているので、回収率を把握するのであれば、配布枚数を把握していかないといけない。

[意見]

委員 : 通常アンケートを求める場合は対象者がどのような方なのか、その対象者の数をカウントするのが当たり前だが、それ以外の方は、小学生や中学生それ以下の乳幼児や幼児の方は対象外ということであればカウントしない、また、どのような方が参加しているのかを把握していないとアンケートの意味はない、結果を評価することも出来ないので、対象者はどこなのか、対象人数は何名なのか、それに付随する子ども達、アンケートを貰うべき方が何名なのかという形を明確に分けるのが普通だと思うので行っていただきたい。

出前講座の中でもっと小さい子に分かりやすく楽しめるような感じにしてください、これは大きなキーワードだと思う。この施設を楽しめるテーマパークにしてとは言わないが、お子さん向けにうんちを題材にした紙芝居や食育の紙芝居など沢山出ているので、そういうものを利用し小さなお子さんにも分かるような楽しみが出来るようなということも啓発の一つと思うので、小さなお子さんを除外するのではなく、家族みんなで研修をしていただくような工夫もされてはいかがか。

[答弁]

海津木苑長 : 委員の皆様からいただいた貴重なご意見を検討させていただき今後の啓発に活用していきたい。

[意見]

委員 : 今回の案内は区民、育成会、一般の方に案内をかけている。

当日何名位のお子さんが来られるかは当日にならないと役員も全く分からない状況であった。

当日は意外に子ども達が多く見受けられ、小さなお子さんは抱っこされており、記憶を振り返ると約 15 名から 20 名は小学生以下のお子さんであった。

アンケートの回収が悪いのはもう一つ理由があり役員が 8 名くらい来ているが、私も行ったが、何度も見ているのでアンケートを書いていない、何度も来ている役員は、恐らくアンケートとは記入していない、そのような事も考えられるのと、他の委員さんが言っていることもよく分かるが、なかなか難しいのではないかと思う。何故ならば区民に呼びかけを行いお母さんだけ来てとは言えない、

どうしても子どもを連れてきてとなり、研修のターゲットの対象者が一般区民でプログラムを組んであるので小さなお子さんが来た時に、大人向けの内容と子ども向けの内容を臨機応変に対応するというのは難しく、対象者を分けないと無理があるのかと思う。

今後、招集する側も考えていかななくてはと感じているところである。

[意見]

委員 : 捕捉になるが、子ども達には少し難しかったというところで、子ども達の年齢層も学校の高学年から低学年、小学以下の子どもと幅が広く、私は小学校低学年に面白かったかと尋ねたら面白かったと言っていたので、シルクハットの話などで理解、楽しさを伝える事が出来たのではと思うが、幼児はなかなか難しいのではと思う。

[意見]

委員 : 2年間区長をさせていただき、海津木苑の施設見学、啓発、出前講座を私の時に始めたが、当初はどのように呼びかけを行うか苦慮したところであり、美明の開発に伴い区の構成も変化している。

区長がお子さん向けで育成会会長に声をかけるのであればダブルスタンダードで取組んではいかがか、もう少し海津木苑と区が連携を行えば成果が出ると思う。

今後、新しいし尿処理施設の話も議題で出るが、今が原点に戻ってしっかり取り組んでいくチャンスだと思う。

今の意見を集約してより一層効果が出るようにしていただきたい。

先ほど委員も言っていたように「子ども達が楽しかった」、「楽しかった」が、原点に戻って考えて人権とは何かと次のステップへ、感性がよい子どものころから人権を考える子にと地元も応援をして子育てをしていけば意識も変わり鹿部の子は違うねと、市内全小学校が4年生になると施設見学に来るので、できればそこに鹿部区が良い形で係われば啓発はより一層よくなると思う。

[意見]

委員 : 私も鹿部区の見学会の説明を聞かせていただいたが、以前から聞かせていただいているが、雑談の中で啓発の内容のことを職員の方と話をしたことがあるが、職員の方は一生懸命取組んでおり、あれもこれも説明したいということで沢山の資料を作られて報告をされているが、あまりにも想いが強いために内容を見ていただくとお分かりになると思うが、総合的になっており時間も1時間以上かかっており最後の方は、お子さんも疲れてきて座っていないとかあり、内容も絶対に伝えたいポイントがあると思う、ここは外してもいいという所もある。

また、重複しているところも結構あり、もう少し工夫していただき時間を縮めたほうがよろしいのではないか。

自分たちは皆様に何を伝えたいというのが浮彫りになってくるような方法が

よろしいのではないかと感じたので検討いただければと思う。

[意見]

副委員長 : 市民部長、今、意見が出たが苑長任せではいけないと思う。
部長、課長で話をして指導しないといけない、いま、いろんな意見が出ているように、真剣に取り組んでいただきたい。
なぜこのような事を申し上げるかという、鹿部区は次期し尿処理施設を受入れないといけないということがあると思う。
だから歴代区長は施設見学に取り組んでいるので、効果が無いといけない。
地元なのでしっかりと行っていただきたい。

[答弁]

市民部長 : 地元とは更に連携を図りながら、事前の打ち合わせをしっかりと行い進めていきたいと思っている。

5) 次期し尿処理施設について (事務局より説明)

・古賀市次期し尿処理施設に関する事前打ち合わせ (第 20 回) 11 月 21 日 (木) (次回)

[質疑]

副委員長 : 今回の海津木苑建て替えについて、単独で処理を行わず福津市を含んでということであるが、市は福津市と広域で処理を行うということは間違いないのか、またそのような事で地元と協議を行っているが大丈夫か、途中で駄目になったり、古賀市全体で議会等円滑にしているのか、地元と話をしていて、議会で駄目ではいけないのではないか、議会が先で地元がその後ではないかと思うがその辺りはいいのか。

[答弁]

市民部長 : 前中村市長の時期にはなるが、福津市の市長と協議を行い、福津市と一緒に行うということで申し合わせは出来ている。
県、国に対しても広域で処理を行うということで申請を行っている。
このような報告になるのは、国から変更申請の承認が正式にいただいていないので、言われるようにどのようにになっているのかという心配をおかけしているが、その辺りは間違いなく福津市と広域で処理を行っていくことは議会にも報告の状態であるが、進捗状況の中で逐一報告を行っているところである。

[意見]

委員長 : 正式に議会の方は今からということ正式に受けていない

[答弁]

市民部長 : 委員会で報告という形をさせていただいているが、今後、負担金の配分や事務費の配分など議会にかけないといけない時期もあるので年度内にそのような議論をしていただくようになるので、そのような予定があるということで間違いな
いとご理解いただきたい。

[質疑]

委員 : 8月19日に委員会のなかで地元の委員より福津市の参加をはっきりと地元協議を行ってくれと前向きな意見は出ていてよい方向に進んでいると思っていたが、その後夜の事前打ち合わせでその話は出なかったのか

[答弁]

環境課長 : 前回の代表者会義では福津市と広域処理を行うので交付金の申請を出していること、7月31日に提出した時も直ぐに国、県に提出したことを行政区長への連絡も密にさせていただいているところである。

代表者会は2ヶ月に1度行われておりその際に確定事項を報告している。

古賀市以外のし尿を受け入れるにあたり、心配事や福津市に確認することの意見など福津市と確認を取りながら協議を進めさせていただいている。

[質疑]

委員 : 地元の認識は古賀市より先日も報告があっているが、変更申請を提出し、変更承認が出るのが11月末と聞いている。

現在、古賀市も確定を待っているところであると地元は十分に理解している。現状市と地元と協議しているのは、次期処理施設についての協定書を進めている。

市と協議を行う前の地元の考え方は現在(案)を取りまとめている状態である。

[補足]

環境課長 : 昨年度中に既に古賀市単独で施設を建設するという事で国に申請を行い国から今年度の環境アセスなどの調査を行う為の交付金は内示をいただいており、現在福津市も入れて広域処理を行うことを含めて申請を行っている。

当初は古賀市単独で内示を受けてはいるが、福津市との広域処理を行うための申請を7月31日に福津市と申請書を作り、両市長名で申請を行っているところである。

今年度やるべきことは単独で交付金は付いており、広域処理をおこなう場合も金額の変動はないが、広域処理を行うことを国、県にしっかりと認めてもらうための申請を行い承認が11月中に出るのを待って環境アセスなど古賀市単独ではなく広域処理を行う施設の規模に対して行っていけるように手続きを行っている状態である。

[報告]

委員 : 古賀市の市民建産委員会に担当課より具体的なというよりも、今ある大まかな流れの説明をいただいている。

委員の方からは、福津市もいる、住民の方もいる、行政区もあるので古賀市も含めて丁寧な対応を進めてほしいというような意見が出ていたと確認している。

委員会では経過報告をしていただいております、最終的には議会で全議員に対して説明が出てくると思うが途中経過である。

[質疑]

副委員長 : 大事な所だと思うが、中村前市長の時期に海津木苑の建替えがこの場に 25 kℓ の処理施設で建設させてくれと方針をここで出したと思うが、区もそれで進めてきたが、福津市が広域の申し出を行い新たに表明したのちに来ている。

中村市長が退任し田辺市長になり、田辺市長がお越しになって市としてこのよ
うに行うとこの場ではっきりと言わないといけないのではないかと、市長の責任と
思うが、それで議会もきちんとお願いをするということをやらないと、そこを抜
きにして地元にあれこれ無いと思う。

市長が出席して市の方針は出されないのか。

[意見]

委員長 : この場は運営委員会であり、設立委員会ではないので、私も越権行為でこうと
か言えないので、市長にこの場で説明を求めるなど出来ないで、運営委員会か
らそのような話が出たとしっかり伝えて市長がどのように判断を行うか見届け
たいと思う。

[質疑]

副委員長 : 昨年か一昨年か忘れたが 2 月に中村市長がここ運営委員会でもお願いをしてお
り、議会、地元での説明もいいが、しかしこの場に来て言うべきだと思う、前市
長は表明している。

今、やり取りを聞いているとあいまいである。

市長がきて表明を行うことを要望する。

[意見]

委員長 : 地元との協議はしっかりと市長に届いていると思うので、運営委員さんの中か
らそのような要望があったことを、この場をお貸しするので、説明をお願いする
というところまで私は言えると思うのでその旨の報告はしていただきたい。

4. その他

・海津木苑設備機器故障時対応チェックシート

資料.4

[意見]

委員 : 災害時対応マニュアルも拝見させていただき内容の確認と、現在に至るまで大

きな事故もなくしっかりと管理が出来ているということ教えていただき非常に安心している。

ただ、他の施設と違い酸素欠乏症の対応をしないといけないし薬品関係を取り扱わなければならない特殊な施設であると改めて認識をしたところであり、気をつけて作業にあたっていただきたい。

[意見]

委員 : 現在これを運用されているということで、関係機関が出てくると思うが、火事であれば消防機関、警察に関係するところが出てくるかもしれないので、また編成されるときに盛込まれたらいいと思う。

[答弁]

海津木苑長 : このシートは機器の故障時のチェックシートに限っており、今いただいた、火災等で申せば災害対策に記載している。

海津木苑ではマニュアルを冊子にし、災害に対して即行動できるように事務所内に保存している。

16 時 35 分 閉会

※ 次回の運営委員会は、12 月を予定している。

以上

この会議録が正確であることを証明するため会議録署名人次に署名捺印する。

令和元年 月 日

委員長

印

委員長の指名する

出席委員

印